

演奏に  
役立つ

One Point Lesson

安藤芳広 あんどう・よしひろ

# PERCUSSION

パーカッション

## バスドラムで「マーチにふさわしい音」を出してみよう(その1)



◆出身 都立豊多摩高校、東京芸術大学  
◆所属 東京都交響楽団、武蔵野音楽大学、なにわ(オーケストラ)ウィンズ  
◆趣味 食べる、読む、飲む、歩く  
◆血液型 A型  
◆星座 ふたご座  
◆読者にひとこと 落ち着いて! でも進んでいこう  
◆手紙の送り先 BJ 氣付

やっぱり吹奏楽の基礎は「マーチ」。そのマーチの演奏のカギをにぎるのが、実はバスドラム(大太鼓)だってことに、みんなは気づいているだろうか?

前々回で、「いま自分が演奏している曲について、『その部分にふさわしい音』とは、いったいどういう音なのかを具体的に考えてみる」という課題を出したけど、今回はそのあたりのことについて、まずはバスドラムを例に、少し具体的に考えていこうと思います。

### ■チューニングのカギは「表」と「裏」

「マーチのカギをにぎる」と書いたバスドラムだけど、そのバスドラム自体のカギをにぎるのはチューニング、これがうまくできなければ、いくら「ふさわしい音」をイメージしても、実際の音作りにはつながらない。

このチューニング、どうやるのがよいのかは言葉で説明しにくいし、実際イメージしにくいせいもあるのだろうけど、知らんぷりしてる人、けっこういるんじゃない? でも、ここを通過しなければ、気持ちのよい行進(=マーチ)はできないよ。楽器はみんなの思っている以上にしっかり作られているから、そんなに心配しなくても大丈夫。よっぽど乱暴な扱いでもしない限り、簡単には壊れたりしないから、敬遠したりこわがったりせず、とにかく「四六時中」楽器をさわること! なぜなら、バスドラムのチューニングは体で覚えるのがいちばんだからね。では、なぜ耳ではなく、体なのか?

ところで、チューニングというと「音(程)合わせ」と思いがちだけど、バスドラムの場合のチューニングは、その楽器が「いちばんよい状態で響くための調整」と考えるべし。そう、ここでもまた大切なのは「響き」。そして「響かす」ために必要なのは表と裏の皮のバランスなんだ。

試しに、表に対して裏の皮をかなり高めに(裏の皮を縮めて)みよう。その状態で

楽器を叩いてみると、叩いた瞬間に「ドン」という発音は聞こえても、その音は響かずに終わるはず。

反対に、表より裏の皮を若干低めに(皮をゆるめる)と、楽器は良い響きを聞かせてくれることが多いんだ。ちなみに「必ず(良い響きを)聞かせてくれる」と断言しないのは、特に両側が皮の楽器は、その楽器ごとの「くせ」みたいなものがあったりするし、また、そのときの楽器を取り巻く環境(たとえば、気温や湿度など)によっても、響き方はどんどん変化するからなんだけど、そんなことも含めた広い意味で、「その楽器がどういう状態のとき、どう響いてどう響かないのか」を敏感に感じとることは、表と裏の皮の絶妙なバランスを見つけるためには必要不可欠。そして、それは聴覚だけに頼ってはいはなかなかつかめな種類のものだから、ゆえに、チューニングはやはり体で覚えてほしいということになる。

話を少し前に戻すけど、表より裏の皮を低め(ゆるめ)にするとよく響くって話、その理由はわかるよね? バスドラムは表の皮を叩いて(=発音させて)、それを裏の皮によって響かせる。だから表の皮はバチが自然に跳ね返るような張りを必要とする。とはいえ、張って(縮まって)いれたいというわけでもなく、目やすとしては叩いてみて、「ベタッ」と感じる音がしたら低すぎ(ゆるめすぎ)けれど、和太鼓のような音程が聞こえてくるような軽い音なら高すぎ(締めすぎ)。そのどちらにも偏ることのない、その楽器が喜んで鳴る状態を、楽器と相談しながら(=さわりながら)探してみよう。次に、それに対して裏皮を気持ち低めに調整できれば、はい、チューニング完了!

あとは、この半年でしっかり身につけてくれたはずの(笑)、自然な手首の動きを忘れずにバチを操りさえすれば、きっといい具合

に裏皮が響きを作ってくれるはず。

### ■考え方も、基本もスネアといっしょ

そう、ここでもやっぱりしつこく言いたいのは「自然な手首の動き」。だってこれを忘れられたら、せっかくごキゲンなチューニングができて意味ないからね。

皮(打面)が横を向いているからって、考え方はスネアドラムとまったくいっしょ。バスドラムのバチは少し太いけど、だからってギュッと握りしめたりしないでくれよ! 肩をいからせて、まるでバスドラムにおおいかぶさるようにバチをぶつけてる姿をよく見るけれど、力んでいたら自然な手首の動きなんて望めるわけないし、せっかく準備万端、よく響くために整えられた楽器でも、ただバチを押つけられて不気味な低周波を発生するか、遠くの打ち上げ花火と間違えられちゃうのがオチだからね(泣笑)。

打面が横向きだから、バチが跳ね返る感じをつかむのが少し難しいかもしれないけれど、バチを持つ手(手首)を回す(打面に対して垂直に円を描く)イメージを持つとわかりやすいかも。

バチの持ち方も基本はスネアドラムと同じ、ただ少し太いので、もしスネアでは親指と人差し指の2本でつまむようにしている人なら、もう1本中指も使って、でもやっぱりその手の中に“遊び”がある状態を作ること。その上で、自然な手首の動きを円運動と考えて、「加速→当たる→跳ねる→減速」を繰り返すイメージで。

文章で書くと複雑な気がしちゃうけど、要は全身でマーチを感じて、音で行進すればいいんだよ。逆に言えば、この自然な動作なしにマーチ(=行進)することはできないわけで……、と、今回は長めの導入(でも、とっても重要!)で終わってしまったけれど(笑)、本題の「マーチにふさわしい音」については、引き続き次号で語らせていただきます!